

## 令和7年度 第3回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和8年2月3日（火） 13時30分～15時30分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 弓削委員、伊藤委員、堺(婦)委員、西田委員、松尾委員、田中(吉)委員、江崎委員、江口委員、江寄委員、久保委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【欠席委員】 中村委員
- 【行政関係者】 大倉野市民協働部長、松枝市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、藏本生涯学習課次世代育成主査、西村スポーツ推進室長、大淵人権・同和・男女共同参画副課長、小野世界遺産・文化財室室長、原武生涯学習課社会教育主事、藤木生涯学習課社会教育振興担当職員
- 【欠席行政関係者】 浦川生涯学習課地域学習担当課長、佐藤人権・同和・男女共同参画課長

### ◆あいさつ

大倉野市民協働部長  
堺議長

### ◆議題

#### 1 令和7年度 第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会について(報告)

事前配布資料「第3回社会教育委員の会議」の資料1「令和7年度 第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会報告書」を基に、研修に参加された西田委員、江崎委員より報告。(意見・質問なし)

#### 2 令和7年度 社会教育・生涯学習事業報告について(報告)

事前配布資料「第3回社会教育委員の会議」の別添資料「令和7年度 社会教育・生涯学習事業報告」を基に、令和7年12月末までの各事業の進捗状況を所管課・室長より報告。以下の質問が出た。

委員	おおむたアリーナ開館記念事業として、著名な選手や団体による模範演技、および子どもたちがスポーツに関心を持つ契機となるような、招待選手による体操教室が実施されている。 数ある種目の中から、今回の記念事業として「体操」を選定された経緯や意図があればお尋ねしたい。
行政職員	前年度（令和6年度）は、バレーボール、バスケットボール、卓球といった球技を主軸に事業を展開した。 今年度の実施にあたっては、本市の体育協会と体操競技団体との協議を進める中で、開催のタイミングや諸条件が整ったことから、体操競技を実施する運びとなった。実際に、目の前で繰り広げられる体操競技の迫力は大変素晴らしく、大きな感動を呼ぶものとなった。今後も、子どもたちがスポーツ

	に親しむ機会となるよう、このような事業を継続していきたい。
--	-------------------------------

### 3 第78回はたちの集いについて(報告)

事前配布資料「第3回社会教育委員の会議」の資料3「第78回はたちの集いの実施状況について」を基に、蔵本生涯学習課次世代育成主査より報告。

以下の意見が出た。

行政職員	<p>今年度は、出席率が前年度の73.3%から75.2%へと向上した。少子高齢化の影響で出席者数自体は減少傾向にあるが、市内高校生ボランティアの積極的な協力もあり、式典を円滑に開催できた。</p> <p>式典の公募については、司会や誓いの言葉などは順調に集まった一方で、国家斉唱のみ応募がないという課題も見受けられた。</p>
委員	<p>「はたちの集い」でのありあけ新世高等学校ダンス部のパフォーマンスについて、当初は部員が少なかったものの、徐々に増えていき、現在、技術も非常に上達している。ステージでは大勢でのパフォーマンスに感動した。</p> <p>また、高校生まちづくり体験事業の中で、ありあけ新世高等学校の学生達が、小学校で指導する取組みも、とても良いと感じている。教えて貰った小学生達が公民館等で披露する場を、是非市で設けて欲しい。</p>

### 4 大牟田文化会館及び大牟田市総合体育館のネーミングライツについて(報告)

当日配付資料「大牟田文化会館及び大牟田市総合体育館のネーミングライツについて(報告)」を基に、松枝市民協働部副部長から概要の説明と報告。

以下の意見が出た。

行政職員	<p>本市では公共施設4カ所に新たにネーミングライツ(命名権)を導入し、企業名等を命名する対価として得られる広告料を新たな財源とする。</p> <p>その用途について、まずは命名された各施設に関連する基金へ積み立てを行い、将来的には地域や子ども達のためのイベントや事業費用に活用していく予定である。</p>
委員	<p>ネーミングライツによって得られた財源の用途は、地域貢献や子ども達への支援といった、特定の限定された目的にしか充てられないのか。</p>
行政職員	<p>その通りである。地域や子ども達のための各種事業・イベントの財源として、目的に沿って確実に活用していく。</p>

### 5 社会教育委員の1年間を振り返って(感想)

議長	<p>本会議が本年度の社会教育委員の任期における最後の会議となるため、振り返って感想をいただきたい。</p>
委員	<p>本年度は玉川校区にて、歴史・福祉・伝統をテーマにした「放課後塾」を年間25回実施した。全児童の約半数が参加し、学習時間では、異なる学年同士で勉強を教え合っていた。</p>

	<p>この経験から、自身の役割は、地域・学校・家庭を結ぶ「コーディネーター」にあると再確認した。今後も新たなテーマを模索し、活動を継続していきたい。</p>
委員	<p>2年間、地域貢献の難しさと向き合ってきた。個別の課題解決には限界を感じることもあったが、今後は活動を『仕組み化』することで、より持続的な問題解決に繋げていきたいと考える。</p>
委員	<p>公民館での活動を通じ、小・中学生に教える中で、自分自身が楽しむことが子どもたちに熱意を伝えるために重要だと感じた。この気付きを心掛け、今後も子ども達に寄り添った活動を続けていく。</p>
委員	<p>今年度は、おおむたアリーナ開館記念事業として、体操競技の模範準備から開催まで携わる貴重な経験ができた。開催当日まで不安な点が多くあったが、スポーツ推進室の室長をはじめ、関係各位の指導により無事、素晴らしい体操競技の事業となった。</p>
委員	<p>昨年、一般公募から参加し、何も分からない状態だったが、『大牟田を思い、支え、行動する市民になる』という自身のコンセプトを学ぶ貴重な機会となった。汗をかいて本市のために取り組んでいる人々の姿を見ることができ、更に大牟田が好きになった。今後も大牟田のために様々な活動に取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>地域活動に関わる中で、生徒や学生がボランティア活動に参加しない問題に直面する。実際、地域から中学生ボランティアについて、参加要望をたびたび受ける。しかしこの課題は、アプローチの方法次第で十分に解決可能であると感じる。子ども達が気軽に参加できる「ちょこっとボランティア」では、声を掛ければ直ぐに多くの生徒が集まる。また、夏休みには高校生が勉強の指導に参加する姿も見られる。中学生や高校生には確かなボランティア精神があるのだと考える。</p> <p>例として、大正小学校での防災訓練ボランティアを挙げたい。この時、地域（まちづくり協議会）からではなく、学校から子ども達に直接依頼をしたところ、多くの中学生が自発的に活動に参加してくれた。ここから、中学生や高校生は、『大人に言われたからボランティアを行う』のではないと感じた。</p> <p>以上のことから、今後は子どもが主体の事業だけでなく、大人が主体の事業に子ども達が参画できる仕組みを増やして欲しい。</p>

## 6 その他

- ・「第9回 福岡県折り紙ヒコーキ県大会」について
- ・2月22日に開催される「延命公園ウォーキング」について周知依頼

⇒次回会議 令和8年7月頃 予定